

各関係機関長 殿  
病虫害防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成29年度農作物病虫害発生予察情報について

平成29年度農作物病虫害発生予報第7号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病虫害発生予報第7号

平成29年8月17日  
徳 島 県

I. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の温州みかん巡回調査では、枯枝から黒点病菌が確認された圃場率は37.5%で、枯枝中の $\alpha$ 型孢子数は $7.8 \times 10^4$ 個/gであった。
- (2) 8月前半のスダチ巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が17.5%、果実の発病度が4.7)。
- (3) 8月10日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。せん除した枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が31.3%と、平年(57.1%)に比べてやや低く、寄生葉率は1.8%と、平年(10.0%)に比べて低い。
- (2) 8月10日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(52.8%)に比べてやや高いが、発病度は0.3と、平年(1.3)に比べて低い。
- (2) 8月10日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行う。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が4.5%と、平年(50.7%、7.1%)並の発生である。
- (2) 8月10日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生の多い園では収穫後に防除を行なう。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月下旬から8月上旬における交信攪乱用フェロモン剤の未設置園(鳴門市大麻町桧, 川崎, 三俣)でのフェロモントラップ誘殺数は、平年に比べてやや多く誘殺されている。

月半旬	鳴門市大麻町桧			鳴門市大麻町川崎			鳴門市大麻町三俣		
	2016年	2016年	平年	2017年	2016年	平年	2017年	2016年	平年
7.4	49	42	53	5	4	7	16	14	5
7.5	74	39	59	4	1	10	4	4	6
7.6	106	37	93	7	1	19	7	7	5
8.1	71	65	127	19	4	16	44	20	15
8.2	108	67	119	21	7	16	67	21	21
8.3	76	53	104	2	5	15	28	5	12

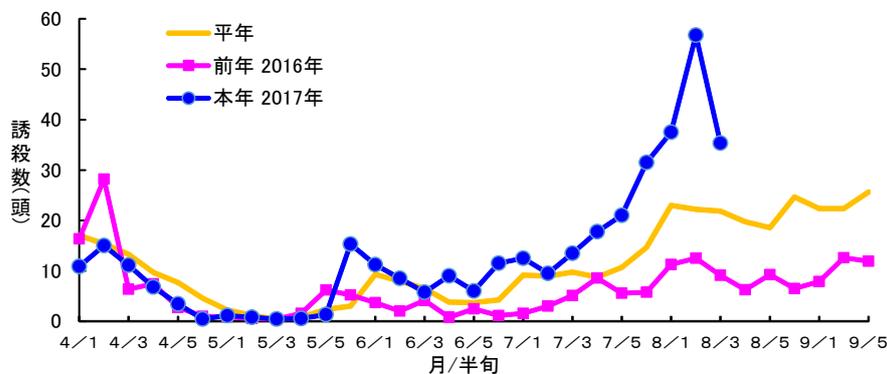


図1 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数推移  
\* 鳴門市、松茂町の9地点平均(7/1からは鳴門市の4地点平均)

- (2) 8月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.5%、被害果率が0.4%)。
- (3) 8月10日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発園では、薬剤防除を行う。
- (2) 被害果は発生源となるので、早急に処分する。

果樹共通

果樹カメムシ類(主に、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 7月下旬～8月上旬における勝浦町での予察灯調査では、ツヤアオカメムシが平年に比べて多く、チャバネアオカメムシは、8月第2半旬より増加している。

(2) 7月下旬～8月上旬における上板町での予察灯調査では、ツヤアオカメムシが平年に比べてやや多く、チャバネアオカメムシは、平年並で推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2016年	2016年	2015年	2014年	平 年
7.4	159	4	83	58	47	22	1	19	14	12
7.5	161	4	73	64	45	29	0	13	11	11
7.6	302	47	43	98	70	44	0	11	11	10
8.1	293	32	17	468	109	9	3	6	3	8
8.2	346	66	20	228	124	15	1	7	2	6
8.3		101	8	205	136		8	5	11	6

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2016年	2016年	2015年	2014年	平 年	2016年	2016年	2015年	2014年	平 年
7.4	19	2	251	18	33	19	6	51	59	82
7.5	26	2	231	22	40	34	7	33	52	86
7.6	74	9	396	87	49	97	3	43	47	44
8.1	81	26	259	194	74	19	4	25	13	26
8.2	169	33	87	389	78	20	3	30	22	17
8.3		54	59	289	88		10	15	79	25

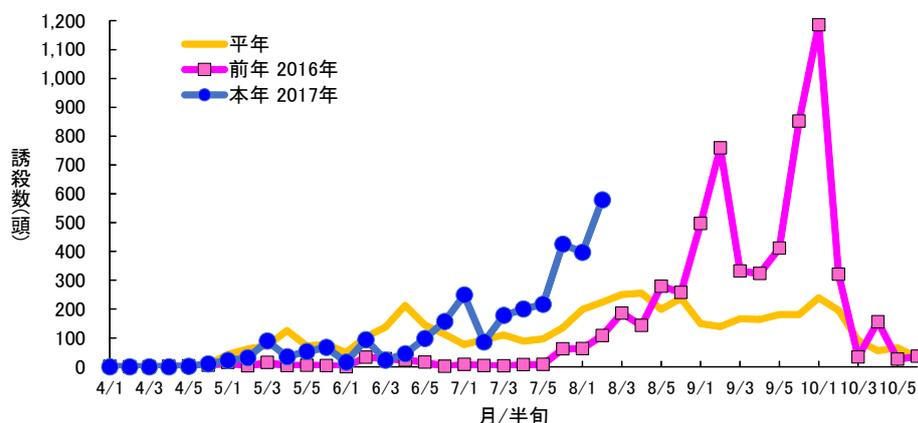


図2 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

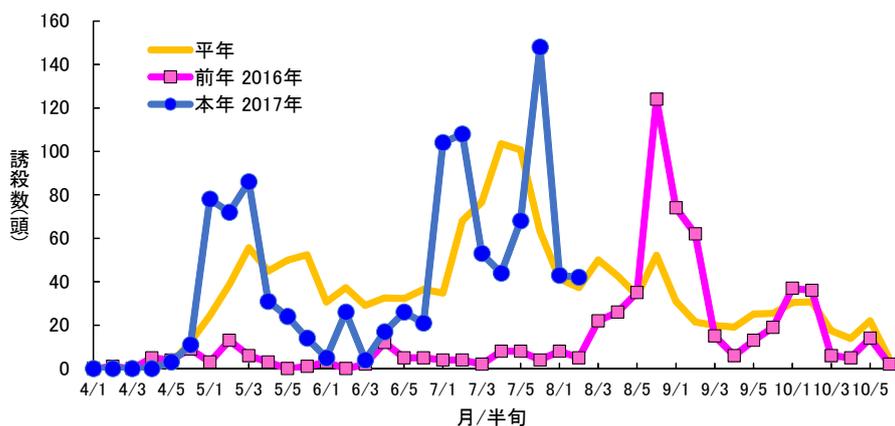


図3 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャパネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

(3) 8月10日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温の高い日が続くと予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

## II. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。

